

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1991700046		
法人名	(株)イーエルイー		
事業所名	グループホーム カーサ西八幡		
所在地	山梨県甲斐市西八幡1707-1		
自己評価作成日	平成28年11月8日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/19/index.php
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	山梨県社会福祉協議会		
所在地	甲府市北新1-2-12		
訪問調査日	平成28年11月24日(木)		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

◎その人らしく暮らせるように、快適で家庭的な生活をサポートします。
◎心を込めた親切なサービスに努め、その心を磨き続けます。
◎さまざまな機会を通じ、地域の人々とのふれあいを大切にします。の3つの【理念】を念頭に置きながら、認知症のご入居者様が、マイペースに、自分らしく生活が出来るように職員は支援している。日々の散歩や外出レクなど、施設にこもるのではなく、なるべく外へ出る機会を作り、体を動かす事も実施している。またご家族様の希望により、在宅医と連携を取りながらご入居者様の健康管理もやっている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所は、アルプス通りから少し入った玉幡公園近くの住宅地にある2ユニット2階建ての建物である。医療と介護が連携するQUEメディカルタウン内の事業所であり、タウン内には整形外科・皮膚等複数の医療機関と調剤薬局、デイサービスやヘルパーステーション等の介護施設があり、近隣の歯科医院等の医療機関とそれぞれ連携を取りながらタウン全体で高齢者の生活を支えている。事業所の駐車場が災害時には地域の第1避難場所になっていたり、公園が散歩コースで地域の人々と挨拶を交わしたり関わりをもっている。有給休暇や休憩時間などは職員の働きやすい環境であり、働く意欲の向上にもつながり、職員は理念に基づいて利用者一人ひとりに合った支援に努めている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己評価および外部評価結果

事業所名 **グループホーム カーサ西八幡**

自己	外部	項目	自己評価(実践状況)		外部評価	
			ユニット名(けやき)	ユニット名(さくら)	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営						
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	各職員に、理念に基づいた支援ができるよう、意識の共有を図るようにしている。	各職員に、理念に基づいた支援ができるよう、意識の共有を図るようにしている。	開所時に地域密着型のサービスの意義をふまえて、3項目を理念として作り、フロアの壁に掲示して毎日の申し送り時に職員みんなで読み上げている。職員は、心を込めて利用者一人ひとりにあった支援を提供し、散歩の時などは地域の人と挨拶し会話するよう心掛けるなど、理念に沿った支援を実践している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自身が地域の一員として日常的に交流している	地域の自治会活動である防災訓練には、ご入居者様と職員で参加し、地域の方と交流している。地域の方にも参加させて頂き、ご入居者様も楽しませている。	地域の自治会活動である防災訓練には、ご入居者様と職員で参加し、地域の方と交流している。地域の方にも参加させて頂き、ご入居者様も楽しませている。	自治会に加入していて、月1回広報が届いている。地域の行事の情報を得て、公民館での落語会や餅つき大会に職員と一緒に参加している。地域の中学生の職場体験の受け入れも行っている。事業所の駐車場が地域の第1避難所になっている事もあり、散歩時に挨拶を交わすなど日常的な交流が出来ている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	同法人のデイサービスと共同で、認知症サポーター研修をこれまでに2回開催し、ご近所の方に参加して頂き、理解を深めて頂きました。また、施設内で行なう納涼祭にも近隣の方にも参加して頂き、施設内の見学や、施設への理解を深めて頂いている。	同法人のデイサービスと共同で、認知症サポーター研修をこれまでに2回開催し、ご近所の方に参加して頂き、理解を深めて頂きました。また、施設内で行なう納涼祭にも近隣の方にも参加して頂き、施設内の見学や、施設への理解を深めて頂いている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	市代表(市職員)、地域代表(元自治会長)、ご家族様、ご入居者様、職員で2ヶ月に1回開催。運営推進会議でできた意見はすぐフロアの職員に伝え共有し改善すべき所は改善し、より良い支援につなげている。	市代表(市職員)、地域代表(元自治会長)、ご家族様、ご入居者様、職員で2ヶ月に1回開催。運営推進会議でできた意見はすぐフロアの職員に伝え共有し改善すべき所は改善し、より良い支援につなげている。	奇数月の最終月曜日の11時から開催している。家族には1年間の会議の予定表を送ったり、議事録の最後に次回の開催日を知らせている。毎回、3~5名の家族が出席している。事業所からは、事故報告や利用者の日常の様子等を伝えて、参加者から質問、意見、要望をもらうようにしている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	困ったことがあれば、運営推進会議や直接市役所に出向くなどし、相談している。	困ったことがあれば、運営推進会議や直接市役所に出向くなどし、相談している。	市の長寿推進課長が運営推進会議に参加しており、事業所の現状を理解している。入居の依頼を受けたり、市主催の研修に参加している。事故報告書等の書類は、直接窓口へ届けるなどして協力関係が築けるように努めている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束はしていない。また、スピーチロックや4方向のベット柵、施錠することなども身体拘束になる事を伝え理解してもらい、おこなわないようにしている。	身体拘束はしていない。また、スピーチロックや4方向のベット柵、施錠することなども身体拘束になる事を伝え理解してもらい、おこなわないようにしている。	毎月実施しているフロア会議で学習会を行っている。その中で「身体拘束時」についての研修を行い、職員の共有認識を図っている。玄関まで来た時は、利用者の話を聞き一緒に外出するなど対応の工夫をしている。スピーチロックについては、職員同士で注意し合っている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることのないよう注意を払い、防止に努めている	虐待はしていない。会議等で虐待防止の勉強会を開催している。今後は虐待防止委員会を立ち上げて防止に努め、職員へのストレス軽減も考慮した対話を心がけている。	虐待はしていない。会議等で虐待防止の勉強会を開催している。今後は虐待防止委員会を立ち上げて防止に努め、職員へのストレス軽減も考慮した対話を心がけている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見人制度については、研修の機会があれば是非参加をして、職員と共に知識を深め活用できるようにしていきたいと思っています。	成年後見人制度については、研修の機会があれば是非参加をして、職員と共に知識を深め活用できるようにしていきたいと思っています。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の際は、十分に時間をとり、ご入居者様、ご家族様が納得して頂くまで説明をしている。入居された後も、不明な点があればその都度答えるようにしている。	契約の際は、十分に時間をとり、ご入居者様、ご家族様が納得して頂くまで説明をしている。入居された後も、不明な点があればその都度答えるようにしている。		

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己評価および外部評価結果

事業所名 **グループホーム カーサ西八幡**

自己	外部	項目	自己評価(実践状況)		外部評価	
			ユニット名(けやき)	ユニット名(さくら)	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	日頃から、ご入居者様やご家族様とは、意見交換しやすい関係が出来ており、何気ない会話からも意見を聞き取り、改善につなげるようにしている。また、定期的に運営推進会議を実施し、そこで出た意見を取り入れ、より良い支援につなげるようにしている。	日頃から、ご入居者様やご家族様とは、意見交換しやすい関係が出来ており、何気ない会話からも意見を聞き取り、改善につなげるようにしている。また、定期的に運営推進会議を実施し、そこで出た意見を取り入れ、より良い支援につなげるようにしている。	面会時は、家族に行事や利用者の様子を話しながら「何かありますか?」と声をかけている。「防水シーツが冬になると冷たくないか?」「同じ服を着ているが...」「散歩をしてほしい。」等気軽に話があり、日々の支援を見直す機会としている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月各フロアー会議などで、職員の意見を聞き、運営に反映させるようにしている。	毎月各フロアー会議などで、職員の意見を聞き、運営に反映させるようにしている。	個別面接の機会はないが、管理者はいつでも職員の話を受ける体制が出来ている。行事やイベントは職員が企画している。備品の購入も可能な限り対応し、職員の要望で掃除機を購入した。有給休暇や休憩時間も取りやすく、残業もほとんどない、働きやすい環境となっている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	法人の社長、管理者等は、各職員の良い面を把握し、より伸ばしていけるように声掛け・指導している。また、各職員の労働条件などを把握し、働きやすい環境になるように心がけている。	法人の社長、管理者等は、各職員の良い面を把握し、より伸ばしていけるように声掛け・指導している。また、各職員の労働条件などを把握し、働きやすい環境になるように心がけている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	介護職の経験が浅い職員が多い為、まずは現場で管理者やリーダーが、丁寧に教えるようにしている。また、フロアー会議などでも、勉強会を開き知識を増やしてもらうようにしている。外部の研修にも参加している。	介護職の経験が浅い職員が多い為、まずは現場で管理者やリーダーが、丁寧に教えるようにしている。また、フロアー会議などでも、勉強会を開き知識を増やしてもらうようにしている。外部の研修にも参加している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	同法人の施設とは、共同で勉強会等を開催し、情報交換をしている。また、他施設研修を行ない他のグループホーム職員と交換研修を行なっている。	同法人の施設とは、共同で勉強会等を開催し、情報交換をしている。また、他施設研修を行ない他のグループホーム職員と交換研修を行なっている。		
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援						
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ご入居者様とは、納得がいくまで話しをし、不安感が無いようにしたうえで、サービスの導入を行なっている。	ご入居者様とは、納得がいくまで話しをし、不安感が無いようにしたうえで、サービスの導入を行なっている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族様とも、納得がいくまで話しをし、不安感が無いようにしたうえで、サービスの導入を行なっている。また、ご入居者様の立場になり代弁者としてご家族様と支援の話し合いを行なっている。	ご家族様とも、納得がいくまで話しをし、不安感が無いようにしたうえで、サービスの導入を行なっている。また、ご入居者様の立場になり代弁者としてご家族様と支援の話し合いを行なっている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	納得がいくまで話し合いを行ない、情報収集をし色々な方面からみて判断し必要があれば他のサービス利用も検討しながら、施設での生活が快適に行えるように支援している。	納得がいくまで話し合いを行ない、情報収集をし色々な方面からみて判断し必要があれば他のサービス利用も検討しながら、施設での生活が快適に行えるように支援している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	グループホームは生活の場であって、職員は家族のような存在であるという気持ちをもつようにしている。よって、家族のように温かい気持ちでご入居者様に接することができ、ご入居者様も楽しく生活が出来ていると思う。	グループホームは生活の場であって、職員は家族のような存在であるという気持ちをもつようにしている。よって、家族のように温かい気持ちでご入居者様に接することができ、ご入居者様も楽しく生活が出来ていると思う。		

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己評価および外部評価結果

事業所名 **グループホーム カーサ西八幡**

自己	外部	項目	自己評価(実践状況)		外部評価	
			ユニット名(けやき)	ユニット名(さくら)	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族様には、入所時に面会が自由にでき、ご入居者様も心待ちにしている方が多い事をお話している。その結果、どのご家族様も頻りに面会に来ることも多く、その都度状況などもお話ができ、施設だけでなく、ご家族様も協力して介護に携わっているという意識がある方が多いように思う。	ご家族様には、入所時に面会が自由にでき、ご入居者様も心待ちにしている方が多い事をお話している。その結果、どのご家族様も頻りに面会に来ることも多く、その都度状況などもお話ができ、施設だけでなく、ご家族様も協力して介護に携わっているという意識がある方が多いように思う。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	同法人からの入居もある為、そこからのご友人が面会に来られてお茶を飲みながらお話をされている。	同法人からの入居もある為、そこからのご友人が面会に来られてお茶を飲みながらお話をされている。	家族とお墓参りに行ったり、馴染みの理髪店で散髪する利用者もいる。畑仕事の好きな利用者は、事業所の畑でナスやキュウリ・サツマイモ等の野菜や花作りのアドバイスをしてくれる。重介護の利用者が多くになっているが、今までの関係が継続できるように支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者様同士で会話が成立することが難しいので、職員が中に入り、スムーズに会話ができるようにしている。	入居者様同士で会話が成立することが難しいので、職員が中に入り、スムーズに会話ができるようにしている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービスが終了後も、必要があれば相談、支援に応じている。	サービスが終了後も、必要があれば相談、支援に応じている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント						
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	まずはご本人様に聞いて、可能な限り希望に添えるようにしている。ご本人様が言えない場合は、これまでの生活歴やご家族様に意見を聞き情報収集をし、ご本人様の希望に添えるような支援を心がけている。	まずはご本人様に聞いて、可能な限り希望に添えるようにしている。ご本人様が言えない場合は、これまでの生活歴やご家族様に意見を聞き情報収集をし、ご本人様の希望に添えるような支援を心がけている。	はっきりと意思の伝達ができる利用者は少ない。日常的な関わりの中で本人の気持ちを汲み取って、意向に沿えるよう支援している。また、希望が出なくても、季節を感じる外出や楽しみな外食の機会を提供している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	これまでの生活歴、家族関係、趣味など、情報収集を行ない、家にいた時と同じような生活が、施設でも行えるようにしている。	これまでの生活歴、家族関係、趣味など、情報収集を行ない、家にいた時と同じような生活が、施設でも行えるようにしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	食事と入浴以外には、あまり細かい決まりを作らず、マイペースに生活ができるようにしている。	食事と入浴以外には、あまり細かい決まりを作らず、マイペースに生活ができるようにしている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	月に1回のフロア会議で各入居者様のカンファレンスを行なっている。またご家族様にも意見を伺い、介護計画に反映させている。	月に1回のフロア会議で各入居者様のカンファレンスを行なっている。またご家族様にも意見を伺い、介護計画に反映させている。	居室担当職員が、支援計画書を作成している。それを基にケアマネジャーが家族や利用者の意見を聞き、カンファレンスを経て介護計画書を作成している。3か月毎に見直しを行っているが、状態に変化が生じた場合は、モニタリングに基づき利用者の現状に合った介護計画書にしている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個々に支援経過を書いており、簡潔に様子がわかるように記録し、どの職員が見てもわかるようにしている。また、全体の介護記録や引き継ぎノート・気づきノートがあり情報の共有を図るようにしている。	個々に支援経過を書いており、簡潔に様子がわかるように記録し、どの職員が見てもわかるようにしている。また、全体の介護記録や引き継ぎノート・気づきノートがあり情報の共有を図るようにしている。		

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己評価および外部評価結果

事業所名 **グループホーム カーサ西八幡**

自己	外部	項目	自己評価(実践状況)		外部評価	
			ユニット名(けやき)	ユニット名(さくら)	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	その都度のニーズには、ご家族様とも相談をしながら、柔軟に対応するようにしている。	その都度のニーズには、ご家族様とも相談をしながら、柔軟に対応するようにしている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	近隣の方と日々の散歩時にお話をしたり、近所のお店を利用したり、顔なじみの関係でいられるように努めている。	近隣の方と日々の散歩時にお話をしたり、近所のお店を利用したり、顔なじみの関係でいられるように努めている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	基本は、家族対応でお願いしているが、ご家族様が関われない方のご入居者様は職員対応にて病院受診している。また、通院が負担になる方はご家族様の意向により在宅医にお願いしている。	基本は、家族対応でお願いしているが、ご家族様が関われない方のご入居者様は職員対応にて病院受診している。また、通院が負担になる方はご家族様の意向により在宅医にお願いしている。	入居前からのかかりつけ医の受診は家族対応となっている。事業所独自の「受診メモ」の用紙には、診察内容等医師の書き込み欄もあり、かかりつけ医と事業所、家族で情報の共有が出来ている。月2回の在宅医をかかりつけ医として10名の利用者が受診している。また、緊急時にも対応している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師2人が交代で勤務している。夜間も電話相談や状況により対応している。また、在宅医と連携を取りながらご入居者様の健康管理に努めている。	看護師2人が交代で勤務している。夜間も電話相談や状況により対応している。また、在宅医と連携を取りながらご入居者様の健康管理に努めている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	ご入居者様が入院した際の情報提供などは適宜行っている。また面会やカンファレンスなどに出向き、情報把握に努めている。	ご入居者様が入院した際の情報提供などは適宜行っている。また面会やカンファレンスなどに出向き、情報把握に努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域との関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	ご家族様の希望で在宅医と連携を取りながら看取りを行っている。施設でできること、できないことを十分に話し合い、ご本人様やご家族様の意向を聞きながら対応している。また、看取りに関する職員研修も行い、ご入居者様やご家族様に安心して日々を、過ごせて頂けるように取り組んでいる。	ご家族様の希望で在宅医と連携を取りながら看取りを行っている。施設でできること、できないことを十分に話し合い、ご本人様やご家族様の意向を聞きながら対応している。また、看取りに関する職員研修も行い、ご入居者様やご家族様に安心して日々を、過ごせて頂けるように取り組んでいる。	ユニット毎、看護師の配置があり看取りの体制は出来ている。重度化した場合は、家族等の意向を踏まえて病院か事業所かの確認を行っている。事業所内で職員と共に「看取り研修」を実施している。今までに看取りの経験があり、看取り後は振り返りもしている。看取り期で入浴できない利用者は、看護師が中心になって洗髪・足浴・清拭等を行っている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	フロア会議などで、急変時における対応の勉強会を行っている。	フロア会議などで、急変時における対応の勉強会を行っている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年に2回、ご入居者様と職員で防災訓練を行っている。その際、消防署に立ち合いをお願いし、意見を聞きながらご入居者様が安全に避難できるように訓練をしている。	年に2回、ご入居者様と職員で防災訓練を行っている。その際、消防署に立ち合いをお願いし、意見を聞きながらご入居者様が安全に避難できるように訓練をしている。	防災のマニュアルは作成してある。消防署立ち合いで避難訓練を行い、AEDの使い方を指導してもらった。避難訓練は計画表を作成し、実施後は報告書を作成して次の訓練に活かしている。12月には、防災機器の点検と洪水訓練・夜間想定訓練を予定している。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援						
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	ご入居者様は、認知症である前に、長い人生を歩んでこられた先輩であることを十分理解し、丁寧な声掛け、対応を心がけている。また、その方のペースに合わせた、ゆったりとした支援を心がけている。	ご入居者様は、認知症である前に、長い人生を歩んでこられた先輩であることを十分理解し、丁寧な声掛け、対応を心がけている。また、その方のペースに合わせた、ゆったりとした支援を心がけている。	居室のドアは通常閉められ、個人のプライバシーは守られている。排泄の誘導時は、歯磨きからトイレにさりげなく誘うというように本人が傷つかない対応に心がけている。利用者が昔の話をする時などは、共感的な態度で話を聞いている。	

自己評価および外部評価結果

事業所名

グループホーム カーサ西八幡

自己	外部	項目	自己評価(実践状況)		外部評価	
			ユニット名(けやき)	ユニット名(さくら)	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	まずはご本人様に確認し、希望が言える方は希望を伺っているが、希望が言えない方は、ご家族様に聞くなどし、なるべく希望に添った自己決定が出来るようにしている。	まずはご本人様に確認し、希望が言える方は希望を伺っているが、希望が言えない方は、ご家族様に聞くなどし、なるべく希望に添った自己決定が出来るようにしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	食事の時間や、入浴の時間は決まっているが、それ以外はご本人様のペースに合わせた生活ができるようにしている。	食事の時間や、入浴の時間は決まっているが、それ以外はご本人様のペースに合わせた生活ができるようにしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	ご本人様の希望に合った服装、おしゃれが出来るように支援している。	ご本人様の希望に合った服装、おしゃれが出来るように支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	嚥下困難な方もいるので、状態に合わせてミキサー食にしたり、その方に合った形態で食事を提供している。昼食の汁物のみご入居者様と職員で作っている。また、テーブル拭きや下膳など、出来る事はなるべく頂くようにしている。	嚥下困難な方もいるので、状態に合わせてミキサー食にしたり、その方に合った形態で食事を提供している。昼食の汁物のみご入居者様と職員で作っている。また、テーブル拭きや下膳など、出来る事はなるべく頂くようにしている。	食事介助の利用者も多く、食事形態もきめ細かい配慮が必要となっている。そのような現状の中でも外食の機会を設けたり、お誕生日は、赤飯やケーキを提供して食事が楽しめる支援をしている。畑で取れた野菜はみそ汁に入れるなどして楽しみを皆で共有している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	献立は業者の栄養士が考えたバランスの良い食事を温めて提供している。嚥下の状態に合わせて食事の形態を変更し、むせがなく食事ができるように工夫している。水分摂取も確認を行ない、少ない方には促したり、ゼリーを摂取して頂いている。	献立は業者の栄養士が考えたバランスの良い食事を温めて提供している。嚥下の状態に合わせて食事の形態を変更し、むせがなく食事ができるように工夫している。水分摂取も確認を行ない、少ない方には促したり、ゼリーを摂取して頂いている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後口腔ケアを行ない、出来ない所は介助をしながら行っている。入れ歯の不具合等があれば、近くの歯科へ付き添い受診を行なっている。	毎食後口腔ケアを行ない、出来ない所は介助をしながら行っている。入れ歯の不具合等があれば、近くの歯科へ付き添い受診を行なっている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェックシートを活用し、各ご入居者様の排泄パターンの把握をし、それに合わせて声掛けしたり、トイレ誘導し、なるべくトイレで排泄が出来るようにしている。	排泄チェックシートを活用し、各ご入居者様の排泄パターンの把握をし、それに合わせて声掛けしたり、トイレ誘導し、なるべくトイレで排泄が出来るようにしている。	トイレは、各ユニットに3ヶ所あり手すりもついて広く使いやすく作られている。トイレでの立ち上がりや座る事もリハビリと考えて支援している。夜間居室でポータブルトイレを使用する利用者・リハビリパンツや布パンツなど利用者にあった排泄用品を考えて支援している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	日々の日課として歩行できる方は散歩をし、車いすの方もチェアエクササイズなどの運動をしている。水分摂取量もチェックし便秘の予防に努めているが、それでも便秘になる方には主治医と相談し、下剤等の処方をして頂いている。	日々の日課として歩行できる方は散歩をし、車いすの方もチェアエクササイズなどの運動をしている。水分摂取量もチェックし便秘の予防に努めているが、それでも便秘になる方には主治医と相談し、下剤等の処方をして頂いている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそって支援をしている	入浴の時間だけは、職員の配置が多い時間と決めているが、毎日入りたい方は毎日でも入浴可能となっている。	入浴の時間だけは、職員の配置が多い時間と決めているが、毎日入りたい方は毎日でも入浴可能となっている。	毎日午前9時から午後6時までには入浴が可能な体制となっている。2日に1度の入浴が基本であるが、3日に1度の利用者もいる。拒否した時は、時間をずらしたり声掛けの工夫をしたり、入浴剤を使う等いろいろに試みて無理強いはいないようにしている。浴室は明るく脱衣室にも暖房が入り配慮している。	

自己評価および外部評価結果

事業所名 **グループホーム カーサ西八幡**

自己	外部	項目	自己評価(実践状況)		外部評価	
			ユニット名(けやき)	ユニット名(さくら)	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	就寝時間は、各個人の休みたい時間に休んで頂いている。寝れない方は、落ち着くまで夜勤者とフロアで話をしたりしている。夜間不眠で、日中に影響が出てしまうような方には、主治医と相談し眠剤を処方して頂いている。	就寝時間は、各個人の休みたい時間に休んで頂いている。寝れない方は、落ち着くまで夜勤者とフロアで話をしたりしている。夜間不眠で、日中に影響が出てしまうような方には、主治医と相談し眠剤を処方して頂いている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	何の薬を服用しているか、各職員にしっかり把握をもらっている。また、看護師からも適宜説明を行なうようにしている。	何の薬を服用しているか、各職員にしっかり把握をもらっている。また、看護師からも適宜説明を行なうようにしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	ご本人様の好きな事は積極的にやって頂くようにしている。じっくり取り組めなかつたりすることも多いが、励ましたり手伝ったりしながら支援している。	ご本人様の好きな事は積極的にやって頂くようにしている。じっくり取り組めなかつたりすることも多いが、励ましたり手伝ったりしながら支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	なかなか自分から希望を言える方は少ないが、歩行状況を見ながら公園まで散歩をし、車いすの方も外気浴できるように支援している。また、お花見、紅葉見学、外出レクなど、各ご入居者様の体調を考慮しながら出来るだけ皆で出かけるようにしている。遠方へのお出かけは、ご家族様をお願いしている。	なかなか自分から希望を言える方は少ないが、歩行状況を見ながら公園まで散歩をし、車いすの方も外気浴できるように支援している。また、お花見、紅葉見学、外出レクなど、各ご入居者様の体調を考慮しながら出来るだけ皆で出かけるようにしている。遠方へのお出かけは、ご家族様をお願いしている。	近くに公園があり、日常的の散歩コースとなっている。公園で犬を見かけて飼い主と会話するなど、地域の人との交流の場にもなっている。大型ショッピングセンター等への個別外出や季節を感じる花見等の外出は、他の事業所の7人乗りの車と事業所の車で全員が出かけられるよう支援している。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	今は、金銭管理ができるご入居者様がいないので、事務で管理させていただいている。金銭管理が出来る方は、ご本人様が管理することも可能です。	今は、金銭管理ができるご入居者様がいないので、事務で管理させていただいている。金銭管理が出来る方は、ご本人様が管理することも可能です。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話、手紙の希望があれば、いつでも支援している。	電話、手紙の希望があれば、いつでも支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有スペースには、季節感のある装飾をし、室温も適温になるように気を付けている。また、車いすのご入居者様や歩行不安定のご入居者様もいる為、通路には歩行を妨げるような物は置かないようにしている。	共有スペースには、季節感のある装飾をし、室温も適温になるように気を付けている。また、車いすのご入居者様や歩行不安定のご入居者様もいる為、通路には歩行を妨げるような物は置かないようにしている。	事業所内は白とダークブラウンで統一され、落ち着いたおしゃれな雰囲気である。食堂を兼ねた居間は、4畳ほどの畳のスペースがあり、くつろげる空間となっている。廊下の壁には、行事の写真が貼ってあり、その時の楽しみを思い出させる機会にもなっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共有スペースには、一人になれる空間はないが、ソファーに座ったり、こたつにあたりたり、各自が思い思いに過ごせるように工夫している。	共有スペースには、一人になれる空間はないが、ソファーに座ったり、こたつにあたりたり、各自が思い思いに過ごせるように工夫している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	クローゼットやベッドは備え付けてあるが、家で使用していた物を持ち込んで頂き、家と同じような雰囲気でご過ごして頂けるようにしている。	クローゼットやベッドは備え付けてあるが、家で使用していた物を持ち込んで頂き、家と同じような雰囲気でご過ごして頂けるようにしている。	居室内は、洗面所・戸棚・クローゼット・ベッド・テーブル・椅子・掲示板・鍵付き消灯台等、生活するのに不自由がないように事業所で用意してある。利用者は、家族の写真やぬいぐるみなど好きなものを自由に持ち込み自分好みの居室にしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	施設には防犯の為に防犯カメラが設置されている。フロアや居室はバリアフリーとなっており、自由に行き来することが可能。また、カメラに頼ることなく、見守りを重視しながら、ご入居者様が安全に生活できるように心がけている。	施設には防犯の為に防犯カメラが設置されている。フロアや居室はバリアフリーとなっており、自由に行き来することが可能。また、カメラに頼ることなく、見守りを重視しながら、ご入居者様が安全に生活できるように心がけている。		